

失（大手ゼネコンの倒産）を受け、更に、金融機関のすすめで購入した土地の値下がり、会社経営が立ち行かなくなりました。

和議（会社更生法とほぼ同じ）を申請しました。事実上の倒産です。幸い和議が認可され、会社再建に邁進することになりました。しかし、特に信用が重視される建設業界です。再起ならず、任意整理をする事に致しました。和議会社では、新しい社長が新しい会社として立て直すという事で、私が社長になっておりましたので、整理は私が前面に出て処理をしました。大変な経験をしました。その時は社会復帰出来ないと思嘆に感じていました。

それでも、生活をして行かなければならないので、2000年9月ガイア（建設会社）を設立致しました。社名の由来は、お手元の資料に書いてある通りです。社是・社訓は、①良い建物（顧客の希望する物）を早く、安くつくることに徹する。②ステークホルダーすべての幸福の最大化を目指す（工期の短縮が一つの方法、損をする人はいないと最近気が付きました）。行動指針として①スピーディーに対応②どんな小さな仕事にも丁寧な対応③安価に出来る方法を常に追求を中心に据えています。

20数年たち、ようやく認められる会社になったのではないかと自負しています。次に、更なる発展と事業継承が次なる課題です。

さて、私個人の事ですが、悲しいかな、楽しみ・趣味は、仕事と酒を飲むことです。社員が帰った事務所で、お酒をちびちび飲みながら仕事（事務仕事）をする事が至福の喜びです（寂しい人生です）。足に痛みを感じ、専門家に診てもらった所、筋肉が弱っている、固まっているとの診断でしたので、筋トレとストレッチを毎日欠かさず行っています。

今後もロータリー活動を続けていきたいと思っていますので、皆様のご指導、ご鞭撻を願ひしまして私のスピーチとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



会員スピーチ 石川宜司会員

菟菟問答

日本の子どもの貧困率 — スタディークーポンの活用

現代人は健康を促進し、維持するためにサプリメント（栄養補助食品）を摂取する。

さて、厚生労働省の「国民生活基礎調査」（2019）によれば、中間的な所得の半分に満たない家庭で暮らす18歳未満の割合「子どもの貧困率」は13.5%で、日本は子どもの7人に1人が貧困状態にあり、先進7カ国（G7）の中で高い水準にある。

内閣府の「令和3年子供の生活状況調査の分析報告書」によれば、「貧困層」の子どもは学習環境に恵まれず、進学機会も狭められ、子どもが経済的に豊かになる可能性が低い。また、学習塾に限らず、習い事をする機会も少なく、多様な経験をしたり人間関係を構築したりする機会も限定的になり、子どものウェルビーイング（well-being）も高くない。

そこで、「貧困層」の子どもが、学校外教育を受けることができる利用券（スタディークーポン）が考えられた。現金給付とは違い、クーポンを支給することで、教育以外の目的に使用されず、確実に教育の機会を提供できる。また、有効期限を設け、貯蓄することなく、教育費用として消費される。教育に向けてのサプリメントも必要であろう。

（小泉博明）

Rotary 東京池袋豊島東ロータリークラブ

3019回 第9回例会 2023.9/21

Rotary Club of Tokyo Ikebukuro Toshima-East

Weekly Report

会長:里見雅行 幹事:石塚文晴 RI会長:ゴードンR.マッキナリー 第2580地区ガバナー:栃木一夫

RI2023-2024年度テーマ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実か どうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるか どうか

世界に希望を生み出そう

【珠玉のことば】

願わくは太平洋の橋とならん
（新渡戸稲造『帰雁の蘆』）

第一次世界大戦後、国際連盟の設立に際して、新渡戸は国際連盟事務次長に選ばれました。日本が満州進出、日中戦争突入と国際社会から孤立していく中で、新渡戸は日米戦争回避のために渡米し活動しました。まさに「太平洋の架け橋」として、国際理解に尽力した先駆者なのです。

本日の例会

9月21日(木) 12:30~13:30

卓話:『日本経済「脱デフレ」は今度こそ本物か?』

卓話者:田村 秀男 様
産経新聞特別記者・編集委員

次回の例会

10月5日(木) 12:30~13:30

卓話:「夜間中学とは何か」

卓話者:前川 喜平 様
現代教育行政研究会代表
(元文部科学事務次官)

9月14日 例会報告

司会 吉田秀得会員
開会点鐘 里見会長
ロータリーソング
ソングリーダー 廣内会員

☆会員総数	35名
☆出席規定適用者数	27名
★本日の出席者総数	22名
★" 免除者出席数	5名
★本日の出席率	68.75%

バギオ基金より第87回感謝状 前川昭一会員

☆本日のゲスト
田中 義正様 東京王子RC

ニコニコ

なし

会長報告

1. 前川会員へバギオ基金より第87回感謝状
2. パストガバナー古宮誠様のお別れの会
10月13日(金) 11時30分～13時
帝国ホテルで開催
3. 2024-25年度地区ガバナー補佐に石川宜司
会員を推薦

幹事報告

1. 先般の幹事報告にて、メールボックス保管について、個人情報保護の観点からメールボックスの書類は原則その都度お持ち帰りいただくようお願い致しましたが、「ロスター」のみは必ずお持ち帰りいただき、「計画・目標書」については、自宅用と会場保管用で2部ずつお配りしておりますので、こちらはメールボックスにて保管いただきましても構いません。
先のご案内を訂正させていただきます。
2. 10月5日例会は元文部科学事務次官の前川喜平様の卓話を予定しており、近隣クラブの板橋、池袋西、板橋セントラルの3クラブにもご案内しております。当クラブ会員の皆様におかれましては是非ともご参加いただきますようお願い致します。

9月14日 卓話報告

私は8年間池袋ロータリークラブに在籍しました。その思い出は、兎に角、会員が120名位いて、しかも事業に成功している方が多くいたような気がしています。そして、私も四十歳代でしたから、皆さんのかばん持ちのような関係でした。その中で、池袋RC出身の方なら覚えているかと思いますが、小原孝一郎さんです。大変お世話になりま

した。感謝してもしきれません。先ず、区議会議員選挙の時に後援会長になって頂き3回当選しました。また、小原さんのご自宅の前の300坪/1000㎡の土地に450坪/1350㎡の留学生会館を建てて頂き、私に経営を委託されました。土地は坪単価150万円とすれば4億5千万円、建物は坪単価100万円とすれば、こちらも4億5千万円位ですから、約9億円の不動産を任せてくれたと言うことです。そこで上智大学、学習院大学、学習院女子大学、早稲田大学と提携し、一年間の交換留学生の受け入れに使いました。経営は比較的順調でした。しかし、それから30年後、小原孝一郎氏は「サヨナラ」も言わずにあの世に旅立ってしまいました。小原氏が亡くなったのは確か2月10日ですが、私は前年の12月31日、ご自宅にお歳暮を届けに行きました。約1時間応接間で話をしましたが、仕事の話ばかり、途中、「来年はブラジルで世界大会があるが、鈴木孝雄さんがガバナーだから、彼を補佐する意味で、私も参加しますので、横山さんも一緒に行きませんか」と誘われました。そして、最後に5分間位、「実は私は癌患者です。でも、すぐ良くなりますから」と言って笑っていました。それが、その後2ヵ月もしないうちに永久の別かれになるとは思っていませんでした。

さて、池袋ロータリーに関して、私は練馬区議会議員でしたので、議会中は区役所内に身柄を拘束され、また議会でも当選を重ねますと重要な役職を任せられ、どうしても、ロータリークラブとの両立は無理になり、退会せざるを得ませんでした。

しかし、やがて十数年経ち、私には政治は向かないことに気が付き、3期12年で区議会議員は諦めました。その反面、生活に時間的余裕ができたものですから、東京練馬西ロータリークラブに再入会しました。このクラブでは真面目な会員で、クラブの会長も務め、またバギオ基金に関心を持ち、フィリピンには10回近く行きました。そして「グローバル補助金」を使ってカルロス寺岡氏宅の近くのカバルヤン小学校には「ポータブル、ライブラリー」を作り、英語版「グリム童話」「イソップ物語」「アンデルセン童話」「デズニーワールド」等の西洋の童話ばかりか、英語版「花咲爺 (old man under cherry blossom)、金太郎 (Strong Boy)、桃太郎 (peach boy) 等、日本の童話、更

に原書のハリーポッター全巻、アンネの日記も購入し、練馬の会員3名と豊島東RCの月井正雄氏の4人で70冊位の本(約20万円)をバックに入れて、手分けして持参しました。本は重かったけれどもバギオの子どもたちの喜びに満ち溢れた顔が今でも忘れられません。そして、練馬西時代にも荘茂登彦氏の土地に今度は精神障害者グループホームを建設させて頂き、小原孝一郎氏の弟の武夫氏の練馬駅前の土地にもグループホームを建設させて頂きました。私は区議会議員時代に「親亡き後の障害者」の自立が深刻な問題であることに気付き精神障害者グループホームと障害者就労支援事業としてパン屋と清掃業を始めていました。

最初の留学生寮は実は前川昭一氏が運営する「和敬塾」を参考にさせて頂き、次の精神障害者グループホームは榎本稔先生の影響が大きいと思います。それは世界では最早、精神科病院は廃止されていて、「精神科クリニック」と「障害者グループホーム」の時代なのです。そういう訳で、尊敬する前川氏と榎本氏、また友人知己が多くいる池袋豊島東RCに移ってきました。練馬西RCのメンバー各人には不満はありませんが、敢えて言えば、練馬西RCでは「バギオ基金」の使命は終わったと言う方が多い。また、高校生の交換留学はインバウンドもアウトバウンドにも協力者どころか、関心が無いみたいでした。前回はドイツ人女性カーリーナ・ヘルムさんをホームステイで受け入れ、コロナ禍で八ヶ月の滞在に短縮され、六ヶ月は私の家に滞在しました。今でも妻/佳子とラインの交換をしているようです。

また、バギオ基金は使命が終わるどころか、今迄は日本からはフィリピン小学生から高校生に至るまでに奨学金を渡すと言う、一方的な直流事業でした。これからは日本から奨学金授与、その代わりにフィリピンからは若い労働者が派遣され、双方が利益を受けるWIN-WIN、本当の意味での「国際交流」になるかと思います。私にはその準備はできました。

これからは終生、池袋豊島東ロータリークラブにお世話になりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



会員スピーチ 横山晴夫会員

.....
お耳汚しではありますが、プログラム委員会からのご指示ですので、私のプロフィールをお話させていただきます。事で会員スピーチとさせていただきます。

生まれは昭和30年1955年12月9日です。ここ豊島区西巢鴨(現東池袋)で出生、5代前まで遡れるのですが、先祖の住所は、文京区窪町、関口水道町、大塚坂下町、豊島区西巢鴨(現在 東池袋)とどんどん東京の中心地から遠くなって来ています。だんだん没落していったのではないのでしょうか。5代前の祖先は人入れ稼業(労働者の紹介・斡旋等)を行っていたと聞いています。祖父の代から鳶・工務店、曳家を営んでおりました(曳家とは建物を移動させることです)。

戦後10年経った1955年生まれ、高度成長期に育ち、三無主義と言われた世代(無気力、無関心、無責任)です。団塊の後の世代です。団塊の方々には人口が多く、競争が激しくエネルギーを持っていた世代で、その後でノンビリした世代でした。私自身も何不自由なく育ちました。区立の小学校、中学校、そして、都立高校を卒業後、推薦入学(知名度のある大学)で入りましたので、受験を知りません。卒業後、一部上場企業に就職しましたが、戦後の高度成長期でまあまあの生活をしてきた親の姿を見ていたので、やはり建設業で食って行こうと決意し(単純な動機ですが)、建築の勉強をし直し、建築科の修士課程に進みました。

たまたま結婚することになった家内の実家も建設業(鉄骨業、ゼネコン)で、規模も父親の会社より大きかった為、修行の意味もあり、岳父の会社に入りました。順調に建設業の技術、営業、経営を学んでいましたが、バブルが来て、そして弾けてしまい、会社は、鉄骨部門で受けた大きな損